資 料 2

公立幼児教育・保育施設再編に関する職員アンケート集計分析

１．アンケート概要

○職員アンケート

・実施期間：9 月 3 日(木)～9 月 17 日(木)　・回答数：104 件／114 人（回答率 91%）

２．アンケート分析

（１）公立保育施設再編の可否

→職員の 8 割以上が賛成。

Q11. 園児数の減少により、園の再編も検討していかなければなりませんが、幼児教育及び保育施設の再編についてどうお考えですか。（１つに○）

賛成	33
どちらかといえば賛成	51
どちらかといえば反対	3
反対	3
どちらでもよい	14
合計	104

安来市内の保育現場で働く職員の約 8 割（賛成 31.7%・どちらかといえば賛成 49.0%）が施設の再編に前向き、あるいはその必要性を認めている。この高い賛成率は、単なる経営効率化や行政都合に基づくものではない。

日々の保育で子どもと向き合い、その発達の軌跡を間近で見つめている保育者たちが、「現在の極端な少人数・小規模環境が、子どもの心身の育ちや社会性獲得において問題がある」という危機感を持っている。

（２）少人数クラスの課題

ア．少ない人数での子どもの育ち・社会性における課題

職員アンケートや自由記述からは、園児数減少やクラスの小規模化が進む現状について、子どもの人間関係や社会性の発達の観点から強い懸念が示されている。

Q7. 現在の園児数の減少（またはクラスの小規模化）により、保育運営上で課題に感じていることはありますか。（複数選択可）

行事（運動会や発表会など）の規模縮小や盛り上がりに欠ける	37
同年齢の友だちが少なく、集団行動や社会性を育みにくい	69
職員数が減り、一人あたりの業務負担やシフト調整が厳しい	68
クラス編成（異年齢保育など）の工夫が必要になり、現場の負担が増えた	67
特に課題は感じていない	6
その他	2

（その他）・小規模園では、担任がかわらない。行事時の保護者負担が大きい。保護者の関係性の固定化。
・小規模園は元々調理師が一人体制であり、人数にかかわらず離乳食から幼児食の調理業務諸々を一人で行うため、食育指導や保護者啓発の時間がとりにくい。

イ．人間関係の固定化と、協同性・社会性を育む環境の欠如

Q7（小規模化による課題）において、最多は「同年齢の友だちが少なく、集団行動や社会性を育みにくい（69.0%）」という項目である。自由記述においても、「1 学年 1 人ではその部分が育ちにくい」「小人数であることから、遊びの幅が広がりにくかったり、友だち同士の関わりが固定化している」といった指摘が複数ある。

幼児期は、同年齢の仲間との衝突や葛藤、そして協同の経験を通じて、「他者の存在を意識し、自分の気持ちを調整しながら折り合いをつける力（社会性）」を培う極めて重要な発達の時期である。1 学年が数名に満たない少人数の環境では、刺激や変化の乏しい人間関係が固定化し、結果として、社会性を育む上で不可欠な環境が欠如してしていることが考えられる。

ウ．集団活動・行事の縮小と経験の貧困化

Q7 で「行事の規模縮小や盛り上がりに欠ける（37.0%）」が挙がっているほか、自由記述でも「子どもたちが一定程度の集団で保育を受けることができ、安心した生活を送れるよう配慮しなければならない」との声がある。

運動会や発表会、日々の集団遊びなどは、単なるイベントではなく、子どもたちが一つの目的に向かって仲間と力を合わせ、達成感を味わうための重要なカリキュラムである。少人数すぎれば、活動規模が縮小となり、子どもたちが受けられる刺激や経験の幅が狭まり、幼児期に獲得すべき体験の「豊かさ」が損なわれる懸念がある。

（3）「適正規模への再編」の必要性

→少人数の課題を解決し、子どもたちに質の高い幼児教育・保育を保障するためには、施設の再編による「適正な集団規模の確保」が急務である。

ア．　現場の職員が求める「子どもにとっての適正規模」

→一定数の集団の大きさ（1 学年 10～20 人規模、園全体で 40～60 人程度）が、子どもの育ちにとって不可欠である

Q 9．一般的に子どもにとって「集団としての適切な規模」は、1 学年（同年齢）あたり何人程度が必要だと思いますか。（1 つに○）

5人未満	1
5人～10人程度	40
11人～20人程度	57
その他	6
合計	104

職員が考える「1 学年（同年齢）あたりの必要人数」（Q9）は、「11 人～20 人程度（57.0%）」が過半数を占めており、5 人未満や極端な少なさを支持する声はごく少数（5 人未満は 1.0%）にとどまる。

Q10.子どもにとって、園全体で園児は、何人ぐらい必要だと思いますか。（１つに○）

（園全体の適正人数）

10人～20人未満	4
20人～40人未満	37
40人～60人未満	53
60人～80人未満	6
80人以上	1
その他	3
合計	104

園全体の適正規模（Q10）についても「20～40 人未満」「40～60 人未満」が多数派を占め、一定の規模感（クラスとして単数ではなく複数確保できる状態）を求めている。

イ． 再編がもたらす子どもの育ちのメリット

Q12. 上記 Q11. で「賛成、どちらかといえば賛成」を選んだ方にお聞きいたします。再編する場合に期待することを選択してください。（３つまで○）

友達が増え、励まし合ったり、競ったりすることでよりよい成長が期待できる。	68
希望する幼児教育・保育施設に入所しやすくなる。	16
保育環境（職員配置等）が整い、子どもたちの生活環境がよくなる。	67
予算が集中することで、効率のよい幼児教育・保育施設の運営が期待できる。	25
幼児教育・保育施設の施設整備が進み、快適な保育環境及び地震などの災害にも安心・安全が期待できる。	33
催事（イベントや行事）に多くの方が参加し、活気が出てくる。	4
その他	2

（その他）
・色々な考えの友だちがいることを幼少期から見たり触れたりすることで、子どもたちの暮らしが豊かになっていくのではないかなと感じるから。
・職員体制に余裕ができることを期待する。

再編に期待すること（Q12）の第１位は、「友達が増え、励まし合ったり、競ったりすることでよりよい成長が期待できる（68.0%）」である。

Q15. 再編を進める際、行政が「最も重視すべき基準」は何だと思いますか。（１つに○）

子どもの育ち（集団の規模、多様な人間関係の経験）	71
保護者の利便性（自宅からの距離、送迎のしやすさ）	5
施設の安全性（耐震性、老朽化の度合い）	4
職員の確保や配置の効率化（持続可能な運営※私立との連携）	22
その他	2
合計	104

（その他）
・環境が変わることへの子どもさんと保護者の方の気持ちを大切に考えること、安心して過ごせるよう個に合わせた丁寧な移行支援。
・今の子育て事情の中での子どもの育ちを考えた国の基準ではない職員の配置基準

行政が最も重視すべき基準（Q15）としても、圧倒的最多が「子どもの育ち（集団の規模、多様な人間関係の経験）：71.0%」となっている。

再編を単なるコストカットや施設の整理としてではなく、「子どもたちに十分な友だちとの関わりと、質の高い保育環境を整備する手段」として位置づけており、子ども同士が刺激し合える環境整備が、再編の意義と捉えている。

（3）再編推進にあたって必要な条件

再編の必要性や「少人数では厳しい」という認識の一方で、単なる統廃合に対する懸念や、再編を成功させるための条件が提示されている。

ア．再編に伴う「個」への懸念

Q18. 逆に、園の規模が「大きくなる（大規模化）」あなたの「保育業務」や「働き方」において、デメリット（懸念点・不安） は何だと思いますか。（複数選択可）

子どもの人数が増え、一人ひとりの発達や体調の変化に目が届きにくくなる	49
けがや事故、感染症（集団感染）のリスクが高まる	31
園全体のルールやマニュアルが増え、個別の状況に応じた柔軟な保育がしにくくなる	16
職員数が多くなることで、スタッフ間の意思疎通や情報共有が難しくなる	65
行事の規模が大きくなり、企画・準備や当日の運営にかかる負担が増える	28
保護者の人数が増え、一人ひとりとの丁寧なコミュニケーションや関係構築が難しくなる	30
異なる園同士の再編により、これまでの保育方針や園風のすり合わせに苦労する	41
登降園時の送迎対応などの周辺業務が増える	4
デメリットは特にない	9
その他	0

Q18（大規模化のデメリット）では、「子どもの人数が増え、一人ひとりの発達や体調の変化に目が届きにくくなる（49.0%）」や「スタッフ間の意思疎通や情報共有が難しくなる（65.0%）」が上位に挙がっている。

再編により集約が進むことで、小規模園が持っている「アットホームさ」や「細やかな目配り」が失われるのではないかという懸念を持っている。

イ.「適正規模への集約 ＋適正な職員配置」のセットの必要性

Q14. 施設の再編により「職員が集約され、手厚い保育、調理ができる」場合、再編に賛成ですか？（１つに○）

賛成	75
条件付きで賛成	9
反対	1
わからない	19
合計	104

賛成条件
・手厚い保育は大切だと感じるが、通うことが難しくなる地域のご家庭への何らかのサポートも必要
・施設の編成は現場で働く職員の意見を聞いて欲しい。
・人数配置をきちんとした上で、さらに職員を配置して欲しい
・手厚い保育では、気になる子どものサポートや一人ひとりの子どもの気持ちを大切にする保育ができる体制にしてほしい。
・再編内容による
・働きたい職員の職場を奪わない（効率化を優先するあまり過度な人員削減をしない）
・クラスに対して正規の人数をきちんとあてる
・新規採用を毎年２人以上確約すること
・様々な保育に対応できるよう職員に話をしてもらいながら研修などしてほしい

Q14 では、再編によって「職員が集約され、手厚い保育ができる」のであれば、反対が１人となる。自由記述でも「手厚い保育では、気になる子どものサポートや一人ひとりの子どもの気持ちを大切にする保育ができる体制にしてほしい」との声が寄せられている。

子どもが増える分、それを支える人的リソースが確保されて、「質の高い集団保育」と「丁寧な個別支援」の両立が可能となる。

ウ．移行時期

Q20. R9 年 3 月には施設の再編方針を決定する予定ですが、方針決定から施設の再編までの準備期間は、どの程度が望ましいと思いますか。（１つに○）

できるだけ早く再編を進めるのがよい【目安：R10・R11から再編】	26
ある程度時間をかけて再編を進めるのがよい【目安：R12・R13から再編】	48
十分な時間をかけて再編を進めるのがよい【目安：R14以降】	12
よくわからない・とくにない	18
合計	104

ある程度時間をかけて再編を進めるのがよい【目安：R12・R13 から再編】が最も多い。できるだけ早くという声も多い。

４．まとめ

安来市の幼児教育・保育現場の職員からは、「これ以上の少人数・小規模な環境の維持は、子どもたちの社会性や集団としての育ちの観点から課題がある」という声が多数である。

子どもの最善の利益を第一に考えるならば、少子化に対応するため、一定の規模を持った施設への再編を進め、子どもたちが十分な仲間と出会い、切磋琢磨し合える環境を構築していくことが必要と考えている。しかし、単なる効率化としての統廃合ではなく、「手厚い職員配置」や「丁寧な移行支援」を伴った質の高い再編を実施することを求めている。